

南池のちょうど北西に位置するこの菖蒲田は、間違いなく明治神宮御苑で最も有名な場所です。もと、江戸時代（1603～1867）には水田として使用されていました。庭園となったのは1893年、昭憲皇太后のためという明治天皇の意向によったことでした。この時、近くの清正井（きよまさのいど）から水を引き、約80種類の様々な菖蒲が植えられました。今では、毎年6月になると花菖蒲150種超・計1500株超が満開となります。